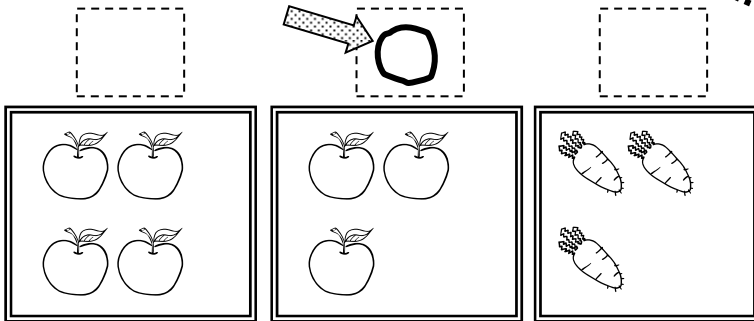


# 使用例

## I 状況選択問題

提示された文と対応する状況絵を選択して、に、○をつける。

りんごが、3こ ありました。



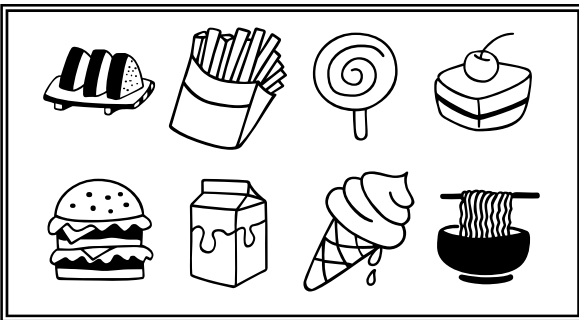
提示文は、奇数番の問題は、過去形で、偶数番は現在形で記述されている。

また、問題1~12までは、「ありました・いました」の、存在・所在文で、問題13~15までは、「さいていました」のような、状態継続の「テイル形」で表現されている。

## II 判断問題

状況絵に対する質問に対して、その正誤を判断し、ある・ない/はい・いいえ などで解答する。

\*え をみて、こたえてください。



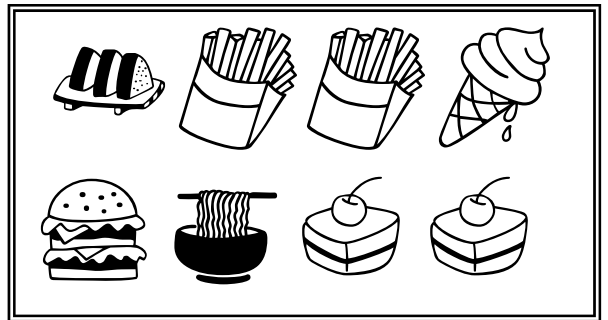
①ポテトは、ありますか？

( **あります** 〈はい〉 )

②バナナは、ありますか？

( **ありません** 〈いいえ〉 )

\*クロス条件の判断問題



①ポテトは、2こ、ありますか？

( **あります** 〈はい〉 )

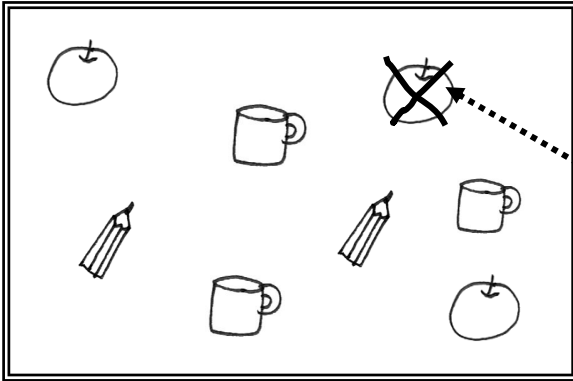
②ケーキは、3こ、ありますか？

( **ありません** 〈いいえ〉 )

### Ⅲ 増減操作問題

まず、提示されている絵の状況での、数量を記入する。  
次に、数量の増減操作を行う。(減少問題は、絵を×で消す。増加問題は、絵を描き加える。)  
最後に、操作によって変化した、数量を記入する。

#### ○減少問題

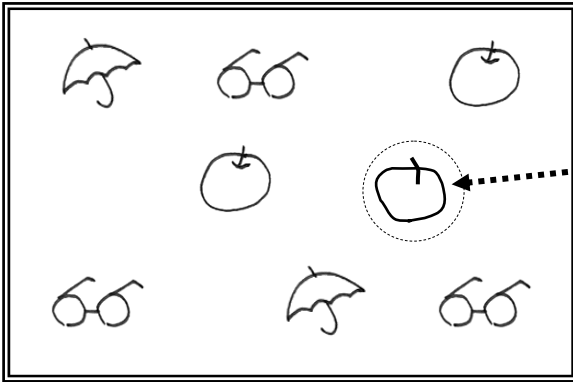


りんごは、なんこ、ありますか？  
( **3** )

りんごを、×で、1こ、けしてください。

りんごは、なんこに、なりましたか？  
( **2** )

#### ○増加問題



りんごは、なんこ、ありますか？  
( **2** )

りんごを、あと、1こ、かいてください。

りんごは、なんこに、なりましたか？  
( **3** )

### Ⅳ 文配列問題

下に提示されている、3つの文を並べ替えて、数量変化のストーリーを作る。

#### ○ストーリー作成問題 ○文章題作成問題

1	
2	
3	

でも、2こ、たべました。

おさらの、リンゴは、3こ、になりました。

おさらに、リンゴが4こ、ありました。

文は、切り取って空欄に貼る。もしくは、空欄に、直接、記入してもよい。

※配列の手掛かりとして、文末を統一し、強調を施している。主題となる第1文は、「あり(い)ました」「～ていました」という表現に網掛が、変化が生起する第2文は、「食べました」などの動詞部分に、●ルビが付けられている。第3文は、ストーリー作成では、結果を示す「～になりました」、文章題作成では、問いかけの「～か？」という表現に、それぞれ、下線(2重/波線)が引かれている。

## V イメージ問題

問題文を読んで、質問に解答する。

おはなしを よんで こたえよう①

こうえんに、イヌと、ネコが、いました。  
でも、ネコが、かえりました。  
いま、こうえんには、なにが、いますか？

(こたえ)

〇〇こうえん



こうえんに、イヌが、いました。  
あとから、ネコも、きました。  
いま、こうえんには、なにが、いますか？

(こたえ)

〇〇こうえん



※数量ではなく、事物名称を解答する

※各問題は、減少⇒増加の順序で、対になって提示されている。

問題文中で、数の増減のフィールドとなる地点・場所・人物には、注目を促すための、下線が引かれている。

解答欄には、数の増減のフィールドが視覚的に示されている。絵を描き込んだり、おはじきなどの事物を操作しながら、状況変化をイメージしてもよい。

※問題は、2数の増減から、3数の増減の順で配置されている。

## VI 算数文章題

文章題の問題文に沿って、絵を描いたり、消したりしながら、数量変化を追い、最後に解答欄に答えを記入する。

ぶんしょうだいを やってみよう①

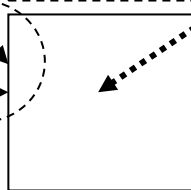
リンゴの えを、2こ、かきました。

でも、1こ、けしました。

リンゴの えは、なんこに、なりましたか？

こたえは **1** こ

えを、かいて  
かんがえよう。



まず、第1文に対応する、絵を、□の中に描く。つぎに、第2文に対する数の増減操作を「消す・描き加え」、もしくは「モノの移動を示す矢印→」などで行う。最後に、結果として現れた、数量を解答として記入する。

※絵は、あくまでイメージを補うものとして、おおまかなものであることが望ましい。

最後の、問題9と問題10は、減算・加算が対で提示されている。描画などの操作を用いず、頭の中だけで数の増減をイメージさせ、解答させる。